

クラス番号	619	担当教員名	片岡 幸雄
テーマ	福祉・保健・医療の変化のなかでMSWの役割と課題を考える		
著書・論文 研究課題等	「福祉・介護に求められる生活アセスメント」(共著) 中央法規 2007年 「医療のなかでいかに社会福祉を实践するか～医療ソーシャルワーカーの揺らぎ～」『医療ソーシャルワーク』93号 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2006年 研究課題：医療ソーシャルワークの専門性と特殊性 生活アセスメント 地域包括ケアシステム		

ゼミナール概要

キーワード： 医療ソーシャルワークの専門性と特殊性 生活アセスメント 地域包括ケアシステム

目的、内容、方法等： 医療ソーシャルワーカー（以下、MSWという）は、「施設」から「地域」へ、「医療」から「介護」へ、「地域」を基礎にした「在宅」重視の『地域包括ケアシステム』の構築に向けて役割を担うことが期待されています（今年に入って、地域包括ケアシステムを深化させた「『我が事・丸ごと』地域共生社会」の実現が出されています）。

個別には、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じて、より効果的・効率的な医療・介護サービスを提供するために、MSWの「**本来の役割**」とそれぞれの機関・施設における「**個別の役割**」を担っていくことが求められます。この取り組みにおいては、MSWがメディカル、コ・メディカルスタッフとお互い（保健、医療、介護、看護）の専門性が生かし、尊重し合えるメンバーとして**リエゾン**（連携）を進めシームレス（継目のない）な支援を協力・協働して展開する。そこでは退院・退所後の患者・家族の「生活」を見据えた支援が必要です。

医療ソーシャルワークの基本は、患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」なかで、ニーズを発見し必要な支援をしていくことがMSWの役割であると考えます。では、MSWとしての支援の軸をどこにおくのか。たんにサービスを当てはめる、結びつけることではありません。患者・家族に寄り添い、その人の「生活」を丸ごととらえ、そこから支援を展開することを重視することです。

患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」と書きましたが、対象は患者とその家族であり、その世帯の生活を丸ごと捉える。現在から過去にさかのぼり、過去をふまえて現在から未来を展望する。生活を歴史的・構造的にとらえることです。そこからどのような支援が必要なのか、求められているのかが明らかになってきます。そのために患者・家族とその生活（史）を捉え「理解できる力（ちから）」（＝アセスメント力）を培うための学習とトレーニングをします。その「場」がこのゼミナールになります。

ゼミの進め方

3年前期：医療福祉コースの共通学習テーマである「多職種連携の模擬カンファレンス」（実施予定）を活用して、アセスメント力を身につけるための基礎知識の学習とトレーニングをします。専門職へのインタビューでは、ゼミの先輩がいる病院へ行けるようにしたいと考えています。

3年後期：ソーシャルワーク実習がある間は、個別に（卒論を意識した）学びたいテーマを決めて取り組みます。全員が集まったら、前期の学習成果を確認する意味も含めて、「モデル事例」をもとにロールプレイとカンファレンスを行います。MSW（ゼミの先輩）をゲスト講師に呼んで現場の話を聞きます。3年の終わり頃から卒業論文の作成準備に取りかかります。

4年：卒論作成が中心になります。社会福祉士国家試験対策等にも取り組みます。

3年・4年の間の春休みに合宿を計画します。

担当教員からのメッセージ

MSWとしての30余年の現場での経験と、これまでのゼミにおける学生との交流（ゼミ内外での学習、合宿など）を通して、ゼミでの課題を考えています。MSWになりたいと思っている学生、MSWに関心・興味のある学生と一緒にMSWの役割と課題を学べたらと思っています。ゼミ生が「**自主性**」と「**主体性**」を培いながら発揮できるようなゼミ活動をめざします。